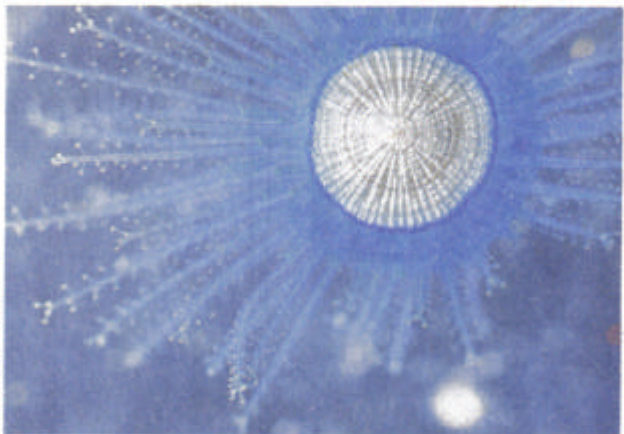


大量に打ち上がったギンカクラゲ。波にもまれてブルーの触手状の個虫はなくなっていた(4日、白浜町臨海の北浜で)



打ち上がったばかりの元気なギンカクラゲを水槽に戻して個虫を伸ばした状態

# 大量漂着 9000匹のギンカクラゲ

## 白浜町臨海 京大助教教授が確認

8月末の台風16号で、白浜町臨海の北浜にあま  
り人目に触れることな  
い帆走型クラゲ「ギンカ  
クラゲ」約9000匹が  
漂着していたことが分  
かった。クラゲ研究の権威、  
京都大学瀬戸臨海実験所  
の久保田信・助教教授(51)

によると、過去5年の定  
量調査で最高の漂着数  
で、「貴重な記録」とい  
う。  
久保田助教教授が台風一  
過の2日午後6時、北  
浜を訪れ、ギンカクラゲ  
が大量に打ち上がってい  
るのを発見した。円盤の

直径は0・5〜3センチ。  
久保田助教教授による  
と、2000年3月〜03  
年2月までの最高漂着数  
はわずか67匹(02年8月  
18日)だった。その後の  
大量漂着は、昨年7月23  
日の1213匹と同10月  
29日の978匹。このほ

か、同研究所に残ってい  
る過去の定量的な記録  
は、1966年3月4日  
の230匹と同4月27  
日の363匹だけ。  
今回は大量漂着前日の  
9月1日、北浜の反対側  
にある南浜に数百匹が流  
れ着き、翌3日は10匹、

4日は5匹だけ打ち上が  
っていた。中には砂にも  
まれて肉部分は溶けてし  
まい円盤部分だけになっ  
たものもあった。

ギンカクラゲは、通称  
デンキクラゲと呼ばれる  
カツオノエボシや、帆状  
の殻を水平板から垂直に  
立ち上げるカツオノカン  
ムリとともに、青い帆走  
型クラゲとして知られ  
る。ギンカクラゲの和名  
の由来となった円盤の周  
りにある青いひげ状のも  
のは、一つひとつが個虫

として生きていて、生殖  
餌の捕獲、消化吸収など  
役割分担が決まっている  
。しかし、普段はは  
るか沖合の外洋で暮らし  
ており、狭い水槽内では  
長生きしないため、生  
活史などについてはほと  
んど分かっていないとい  
う。  
久保田助教教授は「台風  
16号の置きみやげだろ  
う。一般の人が海で浮い  
ている姿を目にすること  
はめったにない」と話し  
ている。